

高知家は移住相談件数全国第2位！

移住者を増加させた移住促進策など「本気」の取り組みを続々展開中

就職・住まい・地域情報の収集や先輩移住者との交流ができる移住フェア開催！

全国47都道府県、約350の自治体・団体が集合「ふるさと回帰フェア2016」に高知家参加！

10月22日（土）場所：東京

高知家最大規模の移住・就職相談会「高知家で暮らす。」12月に開催！場所：東京・大阪

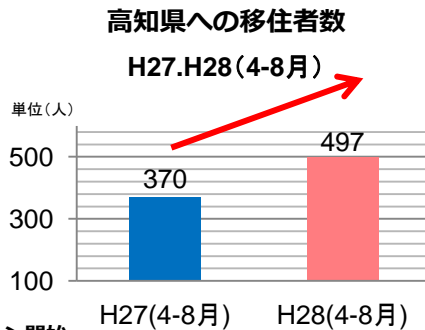
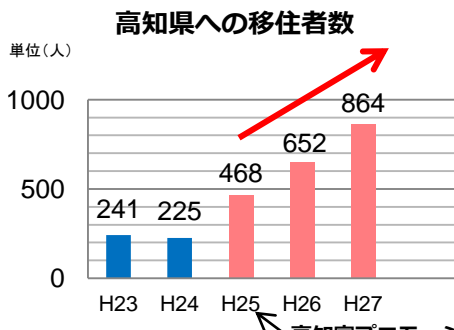
■高知家への移住は順調に増加中

H23年度241人、H24年度225人であった移住者が、高知家プロモーションを開始したH25年以降、順調に毎年増加中。

H27年度の移住相談件数は、北海道を上回る全国第2位。

第1位：長野県（12,054件） 第2位：高知県（8,276件） 第3位：北海道（6,945件）

出典：総務省調査「移住相談に関する調査結果」



高知家の家族 増加中 (イメージ)

イベント情報

■全国47都道府県、約350の自治体・団体が大集合！「ふるさと回帰フェア2016」

10月22日（土）10:00～16:30／東京国際フォーラム／入場無料

高知県コーナー：ホールE

全国47都道府県、約350自治体・団体が移住相談コーナーや特産品などのコーナーを開設し、一極集中、人口減少社会といわれる日本の再生を目指し、ふるさとでの暮らしを希望する都市住民とそれを受け入れたい地域の出会いの場を提供するフェアです。

高知県からは、馬路村・香美市・香南市・南国市・本山町・高知市・土佐町・土佐市・仁淀川町・四万十町・四万十市が参加。移住・交流コンシェルジュへの相談もできます。詳細はこちら：<http://www.furusatokaiki.net/fair/2016/exhibitor/page/15/>



■高知家最大規模の移住・就職相談会「高知家で暮らす。」12月に開催決定

～高知県内企業の約20社、県内全市町村が東京、大阪に集結～

高知家最大規模の移住・就職相談会「高知家で暮らす。」を開催。県内企業約20社による就職相談、農・林・漁業の一次産業、起業、市町村や県の移住相談ブースの他、先輩移住者セミナーなど、高知で暮らすための仕事・住まい・地域などの情報満載の相談会です。

【東京】12月11日（日）10:30～16:30／東京交通会館12階ダイヤモンドホール

【大阪】12月10日（土）11:00～17:00／難波御堂筋ホール7階

公式HP：<http://www.pref.kochi.lg.jp/~chiiki/iju/doc/schedule/>



高知県移住・交流コンシェルジュ

高知県への移住をお考えの方に、地域や住居、仕事などのご希望やご質問をお伺いし、実現のための支援情報のご提供や、不安の解消といった側面からサポートする“移住総合案内人”です。移住情報はウェブサイト「高知家で暮らす。」でも提供しています。

「高知家で暮らす。」 URL：<http://www.pref.kochi.lg.jp/~chiiki/iju/index.shtml>



移住体験

旅行気分の気軽な「お試し滞在」から「本格移住体験」まで

高知県出身のUターンの方以外は、高知県で長期滞在した事がある方は少ないため、中長期体滞在型の施設や、移住体験ツアーなど、高知県への移住を体験できる企画を多数用意しています。旅行の延長のようなお試し滞在がきっかけで移住を決めた方も、「高知家で暮らし隊」への登録をして頂くことで、最新情報を入手できます。

1. 別荘感覚で借りるひと！滞在型市民農園「クラインガルテン」

滞在型市民農園「クラインガルテン」は、ドイツで盛んな200年の歴史をもつ農地の賃借制度です。敷地の中には農園・菜園に加えて宿泊施設があり、野菜づくりを楽しんだり、他の利用者や地域住民と交流したりすることができます。



クラインガルテン四万十



2. 「田舎暮らし」を旅行で体験

県内には農村・漁村の暮らしを体験できる民宿や小学校などの廃校を活用した宿泊体験施設があります。ホテルではなく、こうした施設を利用することで、旅行者でも手軽に「田舎暮らし」が体験できます。宿の「おんちゃん」、「おばちゃん」の人柄に魅かれ、移住を決意される方も。



3. 短期滞在中で高知を体感「移住体験ツアー」

普段の旅行では味わえない、高知の暮らしを体感できる「移住体験ツアー」。移住者のお宅訪問や、空き家・お試し体験施設の見学、夜は高知自慢の食を囲んで地元の方と楽しむ「おきゃく（宴会）」など高知の自然・食・人、暮らしを体感できるツアーです。

★農山村の暮らし～人気の嶺北地域を巡る～（大豊町、本山町、土佐町、大川村） 10月29日（土）、30日（日）開催！

高知県の真ん中、山間部にある自然豊かな嶺北（れいほく）地域。本ツアーでは、1泊2日で田舎暮らし体験をしながら、先輩移住者と交流し、地域の特産品を活かしたビジネス事例、田舎暮らしをはじめてわかったことなど、現地での生活や仕事について情報収集することができます。



ツアースケジュール	
[1日目] 10/29	
9:00	集合（JR高知駅）
9:50	集合（高知龍馬空港）
	本山町 ぼつむ合同会社 見学
	土佐町 哲の家にて昼食
	湖群りんご園にてりんご狩り体験
	大豊町 みどりの時計台にて交流会
20:00	閉会
20:30	解散 初日終了
[2日目] 10/30	
8:00	集合（高知市内）
9:00	集合（みどりの時計台）
	先輩移住者 川上さん夫妻訪問
	大川村 集落活動センターにて昼食
15:30	解散（JR高知駅）
16:15	解散（高知龍馬空港）

詳細URL : <http://www.pref.kochi.lg.jp/~chiiki/iju/doc/schedule/10279/>

4. 中長期滞在中で本格的に移住を検討「お試し滞在施設」

家財道具や調理器具が一式備えられていて、田舎暮らしを試してみることができるお試し滞在施設。いきなり移住する事に不安を感じている方や、移住先を決めかねている方におすすめです。地域の人柄や風土に触れるチャンスです。



移住者を増加させた高知家の移住促進策

◇U・Iターン就職の促進

- ・2015年に開設した「高知県事業承継・人材確保センター」による都市部の人材と県内企業とのマッチング支援 (<http://www.syoukei-jinzai.jp/>)
- ・首都圏で担い手候補を探すための人材確保コーディネーター（2名）を東京に配置
- ・転職支援の専門スタッフがキャリアカウンセリングを行い、企業紹介からアフターフォローまで実施

◇農業に興味のある方 (<http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/>)

- ・産地が求める人材ニーズを明確化にして発信する「産地提案型」の推進
- ・仕事をしながら農業について学べる「こうちアグリスクール」（東京・大阪・高知）の開催

◇林業に興味のある方

- ・2015年に開設された、林業を一から学べる高知県立林業学校での研修の実施 (<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/030201/files/2015021300174/gakkouannai.pdf>)
- ・林業の現場を巡るツアー（年2回）の開催

◇水産業に興味のある方

- ・漁業を体験する「短期研修」、就業に向けた技術習得を目的とした「長期研修」の実施

◇移住希望者の受入体制の強化

- ・市町村における移住専門相談員の配置（28市町村に配置）
- ・移住者の身近な相談役となる「地域移住サポーター」の配置（17市町村94人）

移住者インタビュー

【移住者の声①】

高知市 **村上 八恵**(むらかみやえ)さん

東京都からUターン移住

就職

高知出身の“はちきん”[※]女性が高知を元気に！
フランス人の婚約者と共にUターンを決意。

専門学校へ進学してからずっと東京暮らしだった村上さん。得意の英語を活かし外資系の香料会社やワインの輸入会社に勤めていましたが、次第に英語はあくまでツールであり、「仕事として何がしたいのか？」を考えるようになります。そうした中、父親から「いつか高知へ戻るなら、今でも良いのでは？」とアドバイスされ、フランス人の婚約者とともにUターンすることを決めました。

高知家が行うU・Iターン就職を支援するサイトに登録するなどして仕事の情報を集めながら、2015年には香美市にある祖母の家から移住生活の一步を踏み出しました。現在は、“人工知能テクノロジーで地方創生”を掲げるITベンチャー企業で働いています。



※「はちきん」とは、さっぱりした気性で負けん気が強く行動力のある女性を指す土佐弁。一方、頑固で気骨のある男性を土佐弁で「いごっそう」という。

【移住者の声②】

高知市春野町 **越智 史雄**(おち ふみお)さん

神奈川県からIターン移住

農業

人生を変えるために高知県内最大のキュウリ産地へ移住。
「県農業担い手育成センター」などの研修を経て独立

東京都の外資系IT企業で働いていた越智さん。サラリーマンとして功績を残したところでモチベーションがなくなったことを感じ、人生を変えたいと考えていました。2013年に県が開催する「こうちアグリスクール」の広告を偶然目にし、すぐに東京会場に参加。その後、県農業担い手育成センター（高岡郡四万十町）と農家での研修に参加し、2015年8月に10アールの中古ハウスを借りて独立を果たしました。高知県では各産地ごとに積極的に新規就農者を募集しており、越智さんは県内最大のキュウリ産地である高知市春野町の提案によりキュウリ栽培をすることに決めました。初年度の栽培は成功。「一人だと休めないから夫婦でやったほうがいい」と話し、神奈川県に住む奥様も間もなく高知県に移住する予定です。「年収は前職の四分の一になったが将来は規模拡大していきたい」と越智さんは充実の笑顔を見せます。



【移住者の声③】

土佐清水市 **山上 俊也**(やまがみ としや)さん

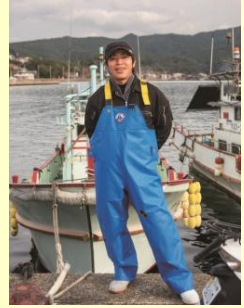
東京都からIターン移住

漁業

海の近くに住む夢を実現！

漁業研修を受けて清水さばの漁師を目指す

東京で暮らしていた山下さんご夫婦は将来は海の近くに住みたいと話していました。約一年半後、旅行で訪れた高知で「ここに住もう」と直感しました。その後は、ネットで情報収集し、移住フェアに2回参加し高知県ブースで支援制度を知りました。実際に漁師の仕事を体験しようと高知県漁協清水統括支所で一週間の短期研修に2度参加した後、移住の意志を固めて2015年9月からは長期研修に参加しています。現在は、朝3時半に港を出て9時くらいに帰港し、漁具の修繕など翌日の操業準備するなど、清水さばの漁師を目指し経験を積んでいます。



【移住者の声④】

香南市 **惟康 紘**(これやす ひろし)さん、さちほさん

大阪府からIターン移住

セカンド
ライフ

役場職員の協力で住居を決め、移住。

地域の付き合いや、地元食材を使ったスモークづくりなど充実のセカンドライフ

大阪府豊中市で洋風料理レストランを30年以上営んできた惟康さん夫婦は、6人の子どもを自立させたこと、シェフとして体力的に無理が利かない時期に来たことを感じ、セカンドライフの過ごし方として移住を決意しました。愛媛の知人を訪ねた際、四国の県を訪れ、古い町並みでありながら普段着のような生活感が溢れる香南市赤岡の町に出会いました。役場職員の協力で住居を決め、2004年6月に移住。2012年には香南市夜須に一軒家を購入し、娘さんたちも一緒に暮らすようになりました。

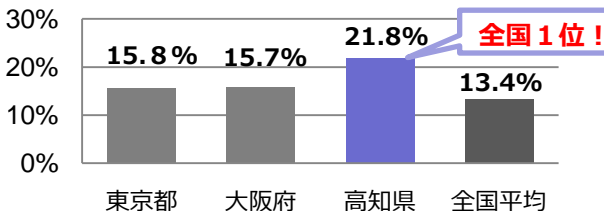
「地域の人にたくさんのことを学びました」と、さちほさんが言うように、ご近所付き合いも活発。最近、高知の食材でジャムやスモークを作っており、将来は「スモークをメインにした朝食を出すB&Bかゲストハウスをすることを妄想中です」と語ります。



数字で見る高知家の暮らし

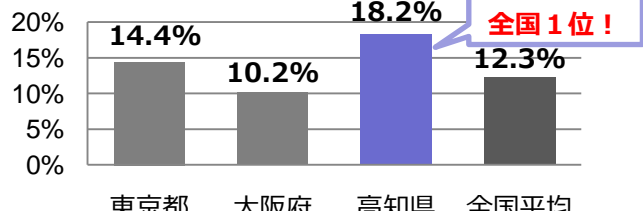
■活躍する女性の多さは全国トップレベル！

管理的職業従事者に占める女性の割合



出典：総務省統計局「平成24年就業構造基本調査」

都道府県別起業者に占める女性の割合



出典：総務省統計局「平成24年就業構造基本調査」

■自由に使える時間が多い

平日の生活時間/日

	睡眠、食事など	仕事・通勤、家事など	自由に使える時間
東京都	10時間27分	8時間1分	5時間32分
大阪府	10時間24分	7時間40分	5時間56分
高知県	10時間53分	7時間7分	6時間

なぜ自由に使える時間が多いの？
→東京と比較すると通勤時間が短い
東京都48分 高知県25分

出典：総務省統計局「平成23年社会生活基本調査」

その他、数字で見る高知家の暮らしはコチラ。 <http://www.pref.kochi.lg.jp/~chiiki/iju/qol/articles/>

高知家プロモーション項目紹介

品目名	旬・期間	特徴
ナス 	1-6月 10-12月	高知県はナスの生産量日本一。栽培されている品種もさまざま。農薬の使用を減らし、天敵昆虫や生物農薬など、環境負荷を抑えた「エコシステム栽培」で作られている。皮にも実にも制ガン作用があるといわれる「ポリフェノール」が含まれている。
トマト 	通年	高知県はフルーツトマト発祥の地。豊富な日照時間と、平地、山地の標高差を生かして糖酸バランスがとれている高品質なブランドトマトが一年を通じて作られている。リコピンを含むトマトは、疲労回復におすすめの食材。
にら 	通年	高知県はにらの生産量日本一で、全国のおよそ4分の1が高知産。高知県のにらは肉厚でやわらかく、香りが強いことが特長。にらに含まれるβ-カロテン、カリウム、硫化アリルは、疲れが溜まった時に積極的に採りたい栄養素です。
土佐文旦 	12月 1-3月	酸味と甘味のバランスが絶妙で独特の味わいが特徴の土佐文旦。高知県がシェア9割以上を占めている。安全安心な国内産のかんきつであり、皮も楽しめる。100gあたりのビタミンC含有量はみかんよりも豊富で、爽やかな香りによるリラックス効果も期待できる。
土佐茶 	通年	高知県は「山茶」と呼ばれる茶の木が自生しており、茶の生育に最適な地質に恵まれている。土佐茶は仁淀川や、四万十川などの清流域の急傾斜地での栽培されており、昼夜の寒暖差が大きいことや霧による天然のヴェールにより、味が深く、金色透明（きんしょくとうめい）、豊かな風味（味・香り）が特長。
土佐あかうし はちきん地鶏 	通年	年間500~600頭しか出荷されていない貴重な品種。赤身はジューシーできめ細かく。噛むほどに肉本来のうまみがじんわりと広がる、赤身のうまさ特長。サシが入った霜降り肉と異なり、あっさりしていて、大人の胃袋にも優しいブランド牛。土佐はちきん地鶏は土佐九斤と大軍鶏の味をしっかりと受け継ぐ、弾むような歯ごたえとうまみたっぷりで脂肪少なめ、また解凍してもドリップが少ないのが特徴。
宗田節 	通年	高知県は、宗田節生産量、原魚であるメジカ（ソウダガツオ）漁獲量ともに日本一。一本釣り漁法で獲ったメジカを長年培った伝統技法で加工している。宗田節はカツオ節に比べ旨みとコクのある濃厚なだしがとれるのが特徴で、高級志向の蕎麦屋では欠かせない食材であるなど、プロの料理人に広く親しまれている。また、高知の家庭では、サラダや卵かけご飯にかけるとバリエーション豊富に使用されている。
ブランド養殖魚 ・海援鯛 ・乙女鯛 ・極美勘八 	通年	海援鯛は、安全・安心な無投薬の養殖マダイ。歯ごたえがあり、身持ちがよいのが特徴。乙女鯛は冬でもプリの成長が停滞しない温暖な宿毛湾の特性を活かし、ハーブミックスとネックリッチ（木酢酸）を添加した飼料にて育成。極美勘八はかんぱち養殖発祥の地である高知の安心で最高品質な養殖カンパチ。
土佐和紙 	通年	千年以上の歴史と技術を引き継ぐ土佐和紙。一級河川の仁淀川をはじめとした豊かな清流のもと原料の生産や技術とともに発展。薄くて丈夫、保存性が高く、文化財修復に使用される品質の高さを誇る。ひだか和紙が生産する「典具帳紙」は世界一薄い紙と言われ、厚さはわずか0.02mm。別名「カゲロウの羽」。
土佐木材 	通年	高知は森林面積が県土の80%以上を占める日本一の森林県。世界文化遺産や名高い寺院など全国各地の歴史的建造物の修復などに使用されたり、土佐和紙、土佐漆喰と合わせて一棟まるごと自然素材の住宅建築に使用されたりする。
海洋深層水 関連商品 	通年	高知県室戸市は、日本初の海洋深層水取水施設を有し、世界初の深層水飲料の販売以降、県内では豆腐やポン酢、日本酒など数多くの商品化が進んでいる。60種以上の天然ミネラルがバランス良く含まれる海洋深層水は、夏場やスポーツ時の水分補給にオススメ。
奥四万十博 	4-12月	四国カルストの山麓にその源を発する、日本最後の清流四万十川、日本かわうその生息が最後に確認された新莊川など、山川海が織りなす日本の原風景が残る奥四万十地域の誘客キャンペーン。自然や旬の味覚、素朴な人情に触れられる。期間:2016年4月10日(日)~12月25日(日) エリア:須崎市,中土佐町,四万十町,梶原町,津野町
歴史観光 	通年	2017年は大政奉還150年。薩長同盟の締結や大政奉還など大きな功績を残した土佐が生んだ維新の英雄「坂本龍馬」をはじめ、高知県は幕末、明治維新に関わりのあった偉人を輩出。
移住 	通年	豊かな森林と青い海の国、高知。高知県の魅力は「自然」「食」「人」。東京、大阪を中心に月1回移住に関する相談会を開催。移住体験やツアー、移住コンシェルジュへの相談等サポート体制も充実。